

JCS NEWS

第12回

チェロの日 Report

CONTENTS

| | |
|-------------------|-------|
| 第12回チェロの日開催報告 | 2 - 5 |
| Celloist's update | 6 - 7 |
| メンバーズ | 8 |
| 事務局からのお知らせ | |
| 編集後記 | |

奏でる
輝く
語り合う





第12回

チェロの日 Report

2023年2月4日(土)・5日(日) サントリーホール ブルーローズ

Photo: Takashi Fujimoto

12回目を迎える「チェロの日」は、3年振りにコロナ禍前の形態に戻り、無事2日間開催を実現することができました。「チェリストの集い」には、55名の会員の方にご参加いただき、コンサートには、両日を合わせ約350名のお客様にお越しいただきました。

今回のキャッチコピーである「奏でる輝く語り合う」は、まさに昨年の「チェロがあるかぎり、チェリストがいるかぎり」の想いを引き継いで掲げることができました。様々な規制が徐々に緩和され、音楽業界も少しずつ活気を取り戻しつつありますが、毎年「チェロの日」の開催を心待ちにして下さる皆様に深く御礼を申し上げます。

チェロと仲良くなるコンサート

コンサートは、第1部の山澤慧さんと振付家・ダンサーの仁田晶凱(にたあきよし)さんによるチェロとダンスの演目からスタートしました。山澤さんは古典作品の勉強を重ね、現代音楽の演奏や作曲家への委嘱を積極的に行っていらつしやり、チェロの可能性を探求されておられます。2015年以降、20世紀以降に書かれた無伴奏チェロ曲のみを集めたリサイタルシリーズ「マインドツリー」を毎年開催され、2020年からは同シリーズの一環として、J.S.バッハの無伴奏チェロ組曲をテーマに据えたプログラムを6ヶ年計画で展開していらつしやいます。今回山澤さんは、バッハの無伴奏チェロ組曲第6番を演奏されました。山澤さんの「プレリユード」の演奏が場内に響き渡ると、途中から仁田さんが舞台上に登場。(クーラント)が終わるまでチェロとダンス、(サラバンド)、(ガヴオット)はチェロのみ、再び(ジグ)でダンスが入るとい構成にて披露されました。仁田さんは、「今回選んだ楽曲は『二つ一つの際立った音の粒が互いに手を取り合い、縦の力と横の

力であった4本の弦から美しいハーモニーを作り出している』、そんな楽曲に感じています。山澤さんのお力を借りて、ダンスという表現でそんな様子を身体で描いてみたいと思っています (Facebookのコメントより抜粋)。と演奏会前に意気込みを話して下さいました。チェロの音色としなやかな身体表現による演目は、耳と目で楽しむことができる機会となったことと思います。お二人の共演は今回が初披露とのこと。チェロとダンスのコラボレーションは「チェロの日」でも初の試みとなりました。

第2部は藤森亮一さんと、ヴァイオリンの須田祥子(すださちこ)さんの演奏でした。藤森さんは京都出身。1982年に第29回文化放送音楽賞、1983年第52回日本音楽コンクール・チェロ部門第1位、1986年第21回東京国際音楽コンクール弦楽四重奏部門・斎藤秀雄賞等、多数受賞。現在、NHK交響楽団首席奏者を務めるかたわら、東邦音楽大学特任教授、国立音楽大学客員教授、東京藝術大学非常勤講師を務め後進の指導にあたつていらつしやいます。今回は、ベートーヴェンの《2つのオブリガート眼鏡付きの二重奏曲》、ヒンデミットの《ヴィオラとチェロの為のスケルツォ》、日系アメリカ人作曲家ポール・ウィアンの《American Haiku》と、バラエティー豊かなプログラムを演奏いただきました。藤森さんと須田さんの演奏は、それぞれ人の声にもっとも近い音色とされているチェロとヴィオラの大変心地の良いデュオの響きでもって会場を包み込みました。

第3部は藤森さんと山澤さんのチェロ・デュオでの演奏でした。演奏された曲目は、モーツァルトの《ファゴットとチェロのための二重奏曲》、バルトークの《18の二重奏曲》(44のヴァイオリン二重奏より編曲 Walter Kun)の二曲を、アンコール曲は、菅野よう子の《花は咲く》(編曲山澤慧)を演奏していただきました。山澤さんが藤森先生と呼ぶ間柄のお二人でしたが、大変息の合った演奏を披露いただきました。

今回のコンサートも3部構成でお楽しみいただきましたが、コンサート名にある「チェ



第2部 須田祥子 (Viola)・藤森亮一 (Cello)

第1部 仁田晶凱 (Dancer)・山澤慧 (Cello) 2

ロと仲良くなる」ならではの多彩なプログラムになったことと思います。

昨年につづき、今年もオンライン配信を実施。ライブ配信、約1ヶ月間リピート配信をいたしました。会場では味わえない臨場感と共に、場所や時間を問わず音楽をお届けできることができ、気軽にチェロの日を楽しめる機会を提供できることを大変嬉しく思っております。

企画担当理事より

1003 菊地 知也



©Ayane Shindo

今回の「チェロの日」は、ダンスやヴィオラとの組み合わせでとても興味深い会となりました。

第1部では山澤さんの真摯に向き合ったバツハと仁田さんの流れる様な柔らかな動きのダンスの融合により、ホールの舞台を越えた美しい空間が広がった様でした。第2部のヴィオラの須田さんと藤森さんとの共演では、時代も国も違う3つの音楽を、それぞれの特徴を強烈に浮かび上がらせ、とてもヴィオラとチェロだけで演奏しているとは思えないほど、豊かな響き、そして色彩を感じました。第3部のチェロのDuoも、全く違う種類の音楽が奏でられ、勿論モーツァルトとバルトークというだけでも充分変化が有るのですが、バルトークの作品も1曲ずつ明確な性格が描写されており、素晴らしい演奏でした。そしてアンコールの《花は咲く》で穏やかに演奏会が終了しました。今回のコンサートはとても音楽の幅や種類が広く、チェロという世界にとどまらず、音楽の可能性を広く追求したものになったと思います。全ての出演者の方々に深く尊敬と感謝の念を抱いた時間となりました。

チェロ・ゼミナール

「チェリスト・レガシー（斎藤秀雄さん）」

2日目、サントリールホールリハーサル室にて「チェリストの集い」参加者に向けた「チェロ・ゼミナール」が開講されました。講師は当協会の評議員長である堀了介さん（司会は渡邊亮氏）。今回は、過去の偉大なチェリストの足跡を辿る企画の一環として、現在のチェリスト、そしてクラシック音楽の礎を築いたと言っても過言ではない斎藤秀雄氏を取り上げ、堀さんにお話しいただきました。

ゼミナールは、堀さんと斎藤先生の出会いについての話から始まり、厳しくて怖いと有名なレッスンの内容や、斎藤先生が育てられたチェリスト（弟子）について。また、チェリストと指揮者の2つの側面を持つ斎藤先生の逸話や意外な素顔について等、堀さんの体験談を踏まえ、普段、書籍等では知り得ない大変興味深いお話をいただきました。そして、最後に、斎藤先生が日本のクラシック音楽・チェロ界に遺されたものについて話され、「チェリスト・レガシー」を締めくくられました。途中、質疑応答の時間等も挟みましたが、あつという間の1時間半となり、参加者と談笑をしながら和やかに進行しました。



チェロでひとつになるコンサート

第9回「チェロの日」から2回の中止を経て、3年振りに「チェロでひとつになるコンサート」を開催することができました。第1部は若手奏者お二人の出演で、東京音楽大学付属高等学校1年に特別特待奨学生として在学中の藤原寛太さん、京都市立芸術大学3年の井上帆乃香さんに演奏いただきました。堂々たる見事な演奏をご披露いただき、今後の活躍が益々期待されます。

第2部は、いよいよ山本祐ノ介さん指揮による、チェロ・オーケストラの演奏です。本番までに数回の自主練習会を重ね、リハーサル、ゲネプロからは1部の若手奏者のお二人、当協会の役員でプロの方も加わり、総勢55名編成にて演奏となりました。20周年記念に小林幸太郎さんに委嘱した作品《チェロの為のハーモニックファンファーレ》から始まり、クラシックからポップス、そして日本人作曲家でお馴染みのいずみたくの曲や、ビートルズのメドレーが演奏されました。曲の合間には祐ノ介さんによるユーモア溢れる楽しいトークを交え、奏者と聴衆が一体になってチェロの音楽を楽しみ様子うかがえました。

チェロ・オーケストラ（第2部）演奏曲

小林幸太郎：チェロの為のハーモニックファンファーレ

A.ピアソラ：アヴェ・マリア

J.シベリウス：悲しきワルツ

K.ダヴィッドフ：賛歌

PM.キング、C.ブライス、R.シュワート：ユー・ピロング・トゥ・ミー

サイモン&ガーファンクル：スカボロー・フェア

いずみたく：見上げてごらん夜の星を

ビートルズ：メドレー

<アンコール>

ビートルズ：オール・マイ・ラヴィング

中村八大：笑点のテーマ

ビートルズ：シー・ラヴズ・ユー

VOICE

10047 稲垣 素子

日曜朝、カラヤン広場にチェロ弾きが集まる光景に、「これぞチェロの日2日目！」と心躍りました。

念願がなつて、ついに本番を迎えることができ、最高のホールで弾ける喜び、素晴らしい先生方、チェロが好きなお二人と一緒に曲を作り上げる機会をいただけて、一愛好家として大変光栄に感じております。

趣向を凝らした演奏を至近距離で堪能できたり、堀先生より貴重なお話を伺えたり、と興味深い企画をはじめ、リハーサルから本番までの間、チェロでつながる皆さんと共に、たっぷりとチェロに浸る2日間を満喫できました。

ちなみに、私は自主練習会もアンサンブルの楽しさを感じるひとときで好きです。石島様、山本先生のご尽力のおかげと感謝いたしております。会員みなさんの和やかな空気感も心地よく、一緒に練習させてもらって有難い限りです。あらためまして、いつもサポートをしてくださるチェロ協会事務局の皆さま、関係者の方々に深く御礼申し上げます。



第3部 藤森亮・山澤慧 (Cello)

若手奏者のお二人より

S-258 井上 帆乃香

G.カサド：無伴奏チェロ組曲より第1、3楽章

この度は、チェロの日の舞台上で演奏する機会を頂けたこと、心より感謝申し上げます。

第1部ではカサドの無伴奏組曲を弾かせていただきました。満席のお客様と50人を超えるチェロ・オーケストラの皆様に見守って下さる中とても緊張しましたが、この上ない夢のような時間でした。リハーサルの中には、ご高名な先生方が聴いてくださりご指導頂けたことも、学生の私にとって貴重な経験となりました。

第2部のチェロ・オーケストラでは、たくさんのチェリストの皆様との演奏に心が弾みました。チェロアンサンブル独特の暖かい雰囲気や音色がとても心地よく、思い切り音楽を楽しめた幸せなひとときでした。

私はサントリーホールで演奏するのが初めてだったのですが、チェロの音を鮮明に響かせ、包み込んでくれる素敵な空間で、そのような素晴らしい会場で弾かせて頂けたことを光栄に思います。

日本チェロ協会の関係者の皆さまに御礼申し上げます。これからも、チェロの魅力をより多くの方に届けられるよう、日々精進したいと思います。

S-213 藤原 寛太

G.リゲティ：無伴奏チェロ・ソナタ

最初に出演のお話をいただいた時は、歴代の先輩方の錚々たる顔ぶれを思い出し、背筋が伸びる思いが致しました。恥じない演奏ができるようにと練習を重ねていきました。

リゲティの無伴奏チェロソナタは、男女の対話が現実味溢れる雰囲気の中で描かれるダイアログ、テンポが速く気性の荒ぶったカプリッチョの2つの部分からなります。技術的にも難解な曲で、良い演奏ができるか正直不安でした。ですが、本番前に聴いてくださった河野先生からは「フィジカルで焦らないようにと思わずに、歌うように意識してみてください」とアドバイスをいただきました。また山崎先生からは「全然問題ないね」と温かく仰っていただいたことで、すーっと肩の力が抜けたのを覚えています。そして迎えた本番。四方八方にはチェロの愛好家の方々とお客様、そして正面にはチェロ界を代表する先生方…。私はそんなブルーローズのど真ん中で、この曲を演奏しました。いざ弾き始めてみれば、空間の響きを楽しみながら演奏出来たのではないかと思います。

また、3年振りとなるアンサンブルも印象に残りました。オシャレな作品、アレンジにも感銘を受けながら、沢山の名曲を楽しく演奏させていただきました。

最後になりますが、このような貴重な機会をいただきまして、本当にありがとうございました。チェロの日でいつかまた演奏できるよう、努力を重ねていきたいと思っています。





初日第1部 仁田晶凱 (Dancer)・山澤慧 (Cello)



初日第2部 須田祥子 (Viola)



初日第2部 藤森亮一 (Cello)



2日目第2部 チェロ・オーケストラ



2日目第2部 左から堤剛、藤原寛太、堀了介、河野文昭、山崎伸子



2日目第2部 山本祐ノ介 (Conductor)

Cellists Update



R-053 Yoko HASEGAWA

長谷川 陽子さん

1. 近況を教えてください

現在（3月末）、春のプログラムの準備を進めています。3月はコロナで3年開催ができなかった、長崎のおぢか国際音楽祭に今年はまた参加することができて、そして沢山の受講生が応募して下さい、とても嬉しく思っています。この音楽祭は、海と島の人たちの優しさに溢れた音楽祭です。何度も訪れていますが、ここで心のデトックスができる素晴らしい環境で、演奏できるのが本当に幸せです。

2. 今後の予定は？

4月は関西フィルさまと田中カレンさんの「アーバン・プレイヤー（都会の祈り）～チェロとオーケストラのための」をマエストロ藤岡幸夫と演奏します。これは、本当に人類愛、そして地球愛に溢れた作品だと思います。コロナや今起きているウクライナの問題、そして環境汚染など、深く考えさせられる作品です。

3. チェロを始めたきっかけを教えてください

2つ上の姉がヴァイオリンやピアノを習っていて、当時は何でも姉のお下がりがだったので、楽器くらいは違うのを弾いてみたい、と思っていたところ、ふとカザルス音源を聴いて、「これだ!」と。

4. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

新しいプログラムを考えている時です。

5. チェロ以外に好きなことはありますか？

猫!!!!!! 我が家には3匹いますが、それぞれに性格が違って、毎日沢山の笑いや微笑みをプレゼントしてもらっています。疲れて帰ってきても、彼らが出迎えてくれるし、触るとふわふわだし、今の私は彼らを大切に育てるために、お仕事を頑張る日々です!

6. プロのチェリストを目指している学生や若いチェリストに伝えたいこと・望むことはありますか？

とにかく若いうちにレパートリーをしっかりと増やしておいて下さい。世の中に出ると、時間も自分の勉強のために確保するのが大変ですし、小さい頃、若い頃に身についたものは確実にあなたの「引き出し」になります。

Upcoming Events

公演名/長谷川陽子 ベートーヴェン チェロ・ソナタ全曲演奏会
日時/2023年5月19日(金) 18:30 開演
会場/兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
料金/¥5,000 大阪新音会員価格:¥4,500 (全席座席指定)
出演/長谷川陽子、松本和将
問/大阪新音 TEL: 06-6926-4888 / FAX: 06-6926-4889

昨年、東京でも行いましたが、2022年のベートーヴェンと、2023年のベートーヴェン像が私の中で少しずつ変化しています。ベートーヴェンの音楽には人間の感情の全てがあり、そして必ず希望があります。

チェリスト長谷川陽子 オフィシャルサイト
<http://yoko-hasegawa.com/>



R-632 Kei YAMAZAWA

山澤 慧さん

1. 近況を教えてください

3月上旬に、第3子(男の子)が誕生しました!新しくはじまった生活にワクワクしています。そんな中、今年後半に演奏する楽曲の譜読みや、チェロアンサンブル XTC のための編曲などを少しずつ続けております。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

5歳頃から、桐朋学園子どもための音楽教室(ひばりヶ丘教室)に通ってまいりました。そこで小学校1年生の時、ピアノかヴァイオリンかチェロを自分の楽器として習う、という機会がありました。(あまり迷うことなく)それまで見たことなかった楽器、チェロを選びました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

コンサートのプログラムや、何かプロジェクトを考えているときはワクワクします。プログラムなど凝りすぎて、実際に取り掛かると大変な作業になる、ということがよくあるのですが、

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

献立を考えること、スーパーで買い物をする、料理をすることは好きです。片付けは苦手です。

5. 「チェロの日」にご出演いただいた感想をお聞かせください

藤森亮一先生との共演は先生の胸を借りるつもりで演奏し、伸び伸びと楽しんで演奏できました。また、ダンサーの仁田晶凱さんとのバッハ無伴奏チェロ組曲での共演はとても楽しいものでした。「無伴奏」曲を演奏する時、しばしば孤独との戦い、となることが多いのですが、ダンサーという共演者がいることで安心して演奏することができました。

6. 今後どのようなチェリストになっていきたいですか？

ここ10年間は、20世紀以降に書かれた作品を積極的に演奏してきました。これからの10年間は、20世紀以前の作品にも改めてじっくり取り組みたいと考えています。

Upcoming Events

公演名/山澤慧無伴奏チェロリサイタル マインドツリー vol.9
日時/2023年7月21日(金) 19:00 開演
会場/トーキョーコンサーツ・ラボ
料金/一般: ¥3,500円 学生: 2,500円

無伴奏チェロリサイタルシリーズ「マインドツリー」も今年で9回目となりました。バッハの無伴奏チェロ組曲第4番や、(オーボエ奏者でもある)ハインツ・ホリガーによる難曲、そして新作の初演を予定しています。また、11月4日にはトーキョーコンサーツ・ラボにてチェロアンサンブル XTC の公演を予定しています。

山澤慧オフィシャルウェブサイト
<https://www.yamazawakei.com/>





R-511 Shoko MASHIYAMA

増山 頌子 さん

1. 近況を教えてください

桐朋学園研究生2年次から、戸塚区民文化センターさくらプラザサポートアーティストとして、また大阪交響楽団副首席奏者として活動させていただいています。右も左も分からない私を受け入れてくださり、今に至るまで暖かく見守ってくださっているオーケストラには、感謝してもしきれません。大阪響団員としては、シンフォニー、オペラ、ポップスサポート、室内楽(特にカルテット)などに取り組みながら、

戸塚区民文化センターさくらプラザさんからは、ソロ、室内楽のお仕事をいただいています。

在京オーケストラ、カルテットなどからお仕事を頂戴する事もあります。

2. 大阪響団員としてのやりがいは？

大阪響は素晴らしいメンバーが多い。本番の集中力たるや、毎回「おっ来た来た！！よし！」とガッツを感じます。お互いを尊重し、鼓舞し合う関係でいられる素晴らしいオーケストラだと感じています。

3. チェロを始めたきっかけは？

父がコントラバス弾き、母がアマチュアチェリストだったので、物心ついた時にはチェロを弾いてました。

4. 一番ワクワクするのはどんな時？

アンサンブルしている時に、メンバー全員の気持ちが集まった瞬間です。また、毎朝のメイクの仕上がりが上手くいった時も「よし！」とワクワクします。

5. チェロ以外に好きなことはありますか？

お散歩(15kmほど歩いたことも)、神社・仏閣巡り、ハイキングなどです。

6. 今後どのようなチェリストになっていきたいですか？

ソロからオーケストラまで、魅力的な音楽を奏でられる、温かいチェリストを目指します。

Upcoming Events

公演名/音楽のあるひとときVol.12『承継と継承～紡がれる音～』

日時/2023年5月18日(木)14:00開演(約1時間)

会場/フェニーチェ堺 小ホール(大阪府堺市)

料金/¥1,000(全席指定・税込)

問/フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール) TEL 072-223-1000

9:00~20:00(第1・3月曜休館 祝日の場合は開館)

ヨーロッパ音楽を日本に紹介されたおひとり、山田耕筰氏の弦楽四重奏曲を、ヨーロッパ音楽のエッセンスBrahmsクラリネット五重奏曲と共に聴かせし、古今東西の心の繋り、心の紡ぎを、お客様と共に楽しみたいと願っています。

増山頌子 公式 Twitter

@mashisho_vc



S-146 Keisuke MORITA

森田 啓介 さん

1. 近況を教えてください

2019年よりドイツのザールブリュッケンで勉強を始め、今年大学院を卒業する予定です。卒業後もヨーロッパで引き続き研鑽を積む予定です。

昨年はリサイタル、コンクール、マスタークラスなどを通して、沢山の方々知り合う機会に恵まれました。今年もレパートリーの開拓や言語の習得に集中的に取り組んでいきたいです。

2. チェロを始めたきっかけを教えてください

3歳上の兄がヴァイオリンを習っていて、兄と同じことをしたい！と言ったみたいなんです。そこで兄の先生から「兄弟で違う楽器の方が世界が広がるから」との理由でチェロを勧められました。

3. 一番ワクワクするときは、どんなときですか？

演奏している時に共演者と同じものを感じ、予定調和ではない音楽が生まれた時。

4. チェロ以外に好きなことはありますか？

本を読んだり、自然の中を歩いたりするのが好きです。自然に身を委ねると、人工物の多い都会で忘れがちな、自然との繋がりや人間も自然の一部なんだという感覚や謙虚さを思い出せます。その上リラックスできるので一石三鳥くらいです(笑)

5. 今後どのようなチェリストになっていきたいですか？

ソリストとして活動していきたいと思っています。また、反田恭平さんが設立したジャパンナショナルオーケストラ(JNO)のメンバーなので、室内楽やオーケストラにも力を入れていきたいです。ソロで学んだ事をオーケストラに、オーケストラで学んだ事をソロに活用できればと思います。学びの場や学んだ事を応用できる場が沢山あるのは本当に有難いことです。と、色々考えていますが、決めすぎるのも良くないと思うので目の前のことを全力でやるのみです。

Upcoming Events

公演名/2017年度 青山音楽賞 新人賞受賞研修成果披露演奏会

森田啓介チェロリサイタル

日時/2023年8月6日(日)14:00開演

会場/青山音楽記念館 バロックザール(京都)

料金/¥3,000(全席自由)

出演/森田啓介、上田晴子

問/青山音楽記念館 075-393-0011 (9:30~18:00月・火休館)

森田啓介オフィシャルサイト concertmorita@gmail.com

今まではドイツに留学している事もありドイツ音楽を中心に演奏してきました。今回はパリで活躍されている上田晴子先生をお迎えしますので、是非フランス音楽を共演してみたいと思い、プーランジェ、フランクを選曲しました。また、後半にはブルッフとブリテンを選曲し、異なる性格や雰囲気曲を楽しんで頂けると幸いです。8月6日京都バロックザールでお待ちしております！

森田啓介オフィシャルサイト

<https://www.keisukemorita.com/>



